

2024年8月14日

株式会社 電通グループ

代表執行役 社長 グローバル CEO 五十嵐 博  
(東証プライム市場 証券コード：4324)

## 2024年度第2四半期連結決算（IFRS）および 剰余金の配当（中間配当）の決定に関するお知らせ

—売上総利益は9.3%増、営業利益は19.9%増。成長への回帰に向け進捗—

株式会社電通グループ（本社：東京都港区、代表執行役 社長 グローバルCEO：五十嵐 博、資本金：746億981万円）は、本日開催の取締役会において、2024年度第2四半期連結累計期間（2024年1月1日～6月30日）の連結決算および2024年度の剰余金の配当（中間配当）について承認しました。

詳細は下記資料をご覧ください。

2024年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔IFRS〕（連結）

URL: <https://www.group.dentsu.com/jp/ir/data/pdf/tanshin2024Q2.pdf>

2024年度 第2四半期 投資家・アナリスト向け決算説明会プレゼンテーション

URL: <https://www.group.dentsu.com/jp/ir/data/pdf/2024Q2EAPRE.pdf>

第2四半期累計の補足説明：

- 売上総利益

売上総利益は、連結のオーガニック成長率はマイナス1.8%となりましたが、プラスの為替影響やM&Aによる増加により、前年同期比9.3%増の5,815億円となり、第2四半期累計として上場来最高となりました。地域別では、日本がプラスのオーガニック成長となり、同地域の売上総利益は第2四半期累計として過去最高となりました。他3地域においても、第2四半期のオーガニック成長率は、第1四半期と比較し、改善しました。

- 営業利益

営業利益は、前年同期比19.9%増、42億円増の257億円となりました。主に日本の事業が堅調に推移したことにより、調整後営業利益が、同3.8%増、22億円増となったことに加え、内部投資への集中に伴う買収関連コストの減少等がありました。

- 親会社の所有者に帰属する中間利益

親会社の所有者に帰属する中間利益は、営業利益が前年同期比で増益となったものの、金融収益の減少や、法人所得税費用の増加等により、前年同期比63.7%減、97億円減の55億円となりました。

## 2024 年度通期連結業績予想の修正：

第 2 四半期累計期間で、APAC 地域において今後の見通しを修正したことなどにより、合計 164 億円の減損損失を計上したこと、また、第 3 四半期にあたる 7 月にロシア事業における当社グループ保有持分の全ての譲渡を完了したことに伴う関連費用が期初の予想を上回ったことにより、2024 年 2 月公表の通期連結業績予想の営業利益及び親会社の所有者に帰属する当期利益の業績予想を修正しました。

なお、事業上の重要指標であるオーガニック成長率やオペレーティング・マージンは、期初の発表から変更はありません。詳細については、同日公開のニュースリリース「2024 年度通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 剰余金の配当（中間配当）の決定：

### (1) 2024 年度配当予想および中間配当（IFRS 基準、2024 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

	2024 年度		
	中間配当	期末配当（予想）	年間（予想）
1 株当たり配当金	69.75 円	69.75 円	139.50 円
配当性向			36.5%

（ご参考）2023 年度実績：中間配当 78.50 円、期末配当 61.00 円、年間 139.50 円。配当性向 35.0%。

### (2) 2024 年度中間配当について

当社は、中期経営計画において、配当性向を 2024 年度に 35%とすることを目標としていましたが、2023 年度に 1 年前倒しでその目標を達成しました。

2024 年度については、2024 年度の通期業績予想における基本的 1 株当たり調整後当期利益の目標 381.96 円を維持することから、期初の予想である 1 株当たり予想年間配当金 139.50 円を据え置きます。なお、中間配当は年間配当金予想の半額である 1 株当たり 69.75 円と決定しました。

以 上

### 【リリースに関する問い合わせ先】

株式会社電通グループ グループコーポレートコミュニケーションオフィス 小嶋、沢田、杉浦

Email : [group-cc@dentsu-group.com](mailto:group-cc@dentsu-group.com)